

## 内水面外来魚管理等対策事業

誌名	栃木県水産試験場研究報告
ISSN	13408585
著者	阿久津, 正浩 尾田, 紀夫
巻/号	47号
掲載ページ	p. 13-14
発行年月	2004年3月

# 内水面外来魚管理等対策事業 —ため池等における外来魚駆除報告— (平成14年度)

阿久津 正浩・尾田 紀夫

## 目 的

大田原市羽田地区（図1）の羽田沼はオオクチバス、ブルーギルの生息が確認されている。沼から流れ出る農業用水路には国の天然記念物ミヤコタナゴが生息しており、外来魚の流出によるミヤコタナゴへの影響が危惧される。

今市市大室ダム（図1、図2）は満水時約9ヘクタール、水深5mの農業用水用ダムである。貯水開始の平成11年以後オオクチバスが密放流され、その生息が確認されている。

そこで、ため池等における外来魚の効果的な駆除方法を検討するため、上記水域における外来魚の駆除を実施した。

## 方 法

羽田沼では、5月29日、7月30日、8月2日の3回、セルピン、投網、地引網を用い外来魚駆除を実施した。その下流の水路では11月25日、タモ網を用い駆除を

施した。

大室ダムは農閑期である秋季に、約1週間かけてダムの水を可能な限り抜き10月31日に駆除を実施した。水を抜くとダムの底には水路（図3）が残り、その水路内を引網、タモ網を用いて外来魚を捕獲した。

## 結果及び考察

### (羽田地区)

羽田沼及び水路で実施した駆除結果を表1に示す。5月29日は産卵時期であり、岸よりの数ヶ所に設置したセルピンで、ふ化直後のオオクチバス稚魚が30尾、ブルーギルを約300尾捕獲した。

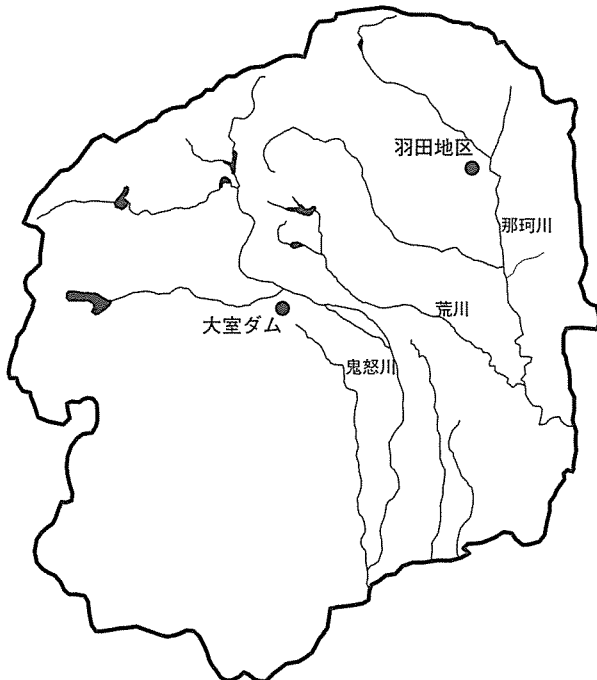


図1 駆除実施場所



図2 大室ダム（満水時）



図3 大室ダム内水路

表1 羽田地区における外来魚駆除状況

日付	場所	捕獲方法	捕獲尾数(尾)	
			オオクチバス	ブルーギル
5月29日	羽田沼	セルビン	30(稚魚)	約300(稚魚)
7月30日	〃	地引網、投網	40	17
8月2日	〃	〃	24	2
11月25日	羽田水路	タモ網	4	1

7月30日、8月2日は沼の水深を下げ、網で囲むことにより捕獲することを試みた。しかし、羽田沼は泥が深く、地引網を引くのが困難であるため、外来魚を効率的に捕獲できなかった。

このような条件下では、刺し網や釣りによる産卵時期の親魚の捕獲、産卵床の破壊、遊泳力の弱い稚魚の捕獲が効果的であると思われた。

また、11月25日に水路で実施した駆除では、オオクチバス4尾、ブルーギル1尾が捕獲された。ミヤコタナゴへの影響が危惧される結果となった。

#### (今市市大室ダム)

10月31日の駆除で、オオクチバス、ブルーギル合わせて約3,000尾(84kg)が捕獲された。オオクチバスは約2g～約1kgまで様々なサイズの個体であったのに対し、ブルーギルは全て約2～5gの個体であった。親魚サイズの個体は確認されなかったことから、ブルーギルは今年稚魚の状態で放流された可能性が高い。

その他生息魚種として大型のコイとヘラブナが多数確認されたが、それらの稚魚は全く確認されなかったのは、外来魚に食べ尽くされたことが原因と考えられた。捕獲したオオクチバスの個体の一部を解剖したところ、胃内容物にオオクチバスの稚魚が確認された個体もみられた。このことから、この水域はオオクチバスの生息能力限界以上となり、餌料が枯渇したことが推察された。

なお、同ダムでは完全に水を抜ききることができなかったが、ダム底に水路が現れるほどまで水域を限定することで、駆除効率を高めることができた。

表2 大室ダムにおける外来魚捕獲状況

日付	場所	捕獲方法	捕獲尾数(尾)
			オオクチバス、ブルーギル
10月31日	大室ダム	かい堀、引網、タモ網	約3,000

(指導環境部)